スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

熊本県菊陽町

自 治 体 名 ： 熊本県菊陽町
担 当 課 名 ： 菊陽町教育委員会スポーツ振興課
電 話 番 号 ： 096-288-7877

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

基本情報

面積	37.46㎢
人口	43,942人
公立中学校数	2校
公立中学校生徒数	1,457人
部活動数 （運動部活動のみ）	24部活
地域クラブ活動数	0クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

本年度の町内中学生徒総数は、1,400人以上を推移している。今後6年に関して、町内児童数からも減少することはないと予想される。

本町の地域展開の状況は、検討委員会を開催し基本方針の決定、運営団体の設定、指導者確保に向けた条件整備を行った。また、試行として2クラブについて各1回実施した。参加した生徒、指導者のアンケートから概ね好意的な意見が聞かれた。

部活動地域展開の組織図を作成し、運営主体（管理・業務）、実施主体（各地域クラブ活動）、学校の協働・連携を密に進める施策を構築する計画である。

今後、令和9年度からの全地域クラブでの実施に向けての課題は、運営団体、実施主体、学校の連携在り方について検討することと、指導者の確保である。

◎学　校　　資料：学級数児童生徒数調　　（単位：人）

名　称	令和2年		令和3年		令和4年		令和5年		令和6年	
	学級数	児童数生徒数	学級数	児童数生徒数	学級数	児童数生徒数	学級数	児童数生徒数	学級数	児童数生徒数
菊陽中部小学校	33	850	33	821	32	834	31	801	31	796
菊陽南小学校	9	86	9	85	9	92	9	88	9	85
菊陽北小学校	18	382	20	445	21	491	23	529	25	558
武蔵ヶ丘小学校	15	334	14	299	15	301	15	258	13	249
菊陽西小学校	35	959	35	944	35	893	36	884	35	843
武蔵ヶ丘北小学校	19	442	20	473	20	471	21	466	22	468
小学校合計	129	3,053	131	3,067	132	3,082	135	3,026	135	2,999
菊陽中学校	18	546	21	617	23	635	24	643	24	627
武蔵ヶ丘中学校	27	838	29	874	29	869	29	864	29	836
中学校合計	45	1,384	50	1,491	52	1,504	53	1,507	53	1,463

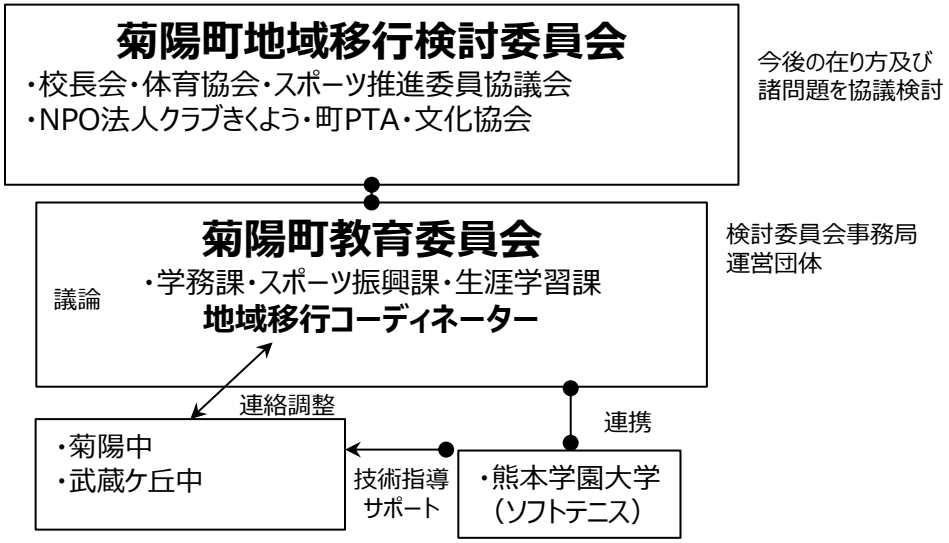
※学級数には特別支援学級も含む。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

◉教育委員会
学務課（部活動主管課）
スポーツ振興課　（地域移行主管課、運動部活動所管）
生涯学習課（文化部活動所管）

◉コーディネーター 学校との連絡調整

年間の事業スケジュール

令和7年4月	部活動地域移行コーディネーター配置
令和7年5月	保護者説明会
	先進地視察研修（長崎県長与町）
	第2回部活動地域移行検討委員会
令和7年6月	先進地視察研修（玉名市）
令和7年7月	教職員アンケート実施
～8月	
令和7年9月	試行の取組（男女バスケットボール）
	試行の取組（女子ソフトテニス）
令和7年10月	第3回部活動地域移行検討委員会
令和8年2月	保護者説明会、教職員説明会
	第4回部活動地域移行検討委員会
	令和8年度先行実施種目指導者研修

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		2クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		2クラブ（男女バスケ部、女子ソフトテニス部）
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		0クラブ
全体の指導者数	14人	全体の運営スタッフ数	14人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
菊陽町男女バスケットボールクラブ	菊陽町教育委員会	バスケットボール	・平日 0回 ・休日 1回	午前	1年41人 2年36人	9月15日	9人	9人 （内、兼務0人）	0円 /年額 （等）	-
菊陽町女子ソフトテニスクラブ	菊陽町教育委員会	ソフトテニス	・平日 0回 ・休日 1回	午前	1年12人 2年13人	9月28日	5人	5人 （内、兼務0人）	0円 /年額 （等）	-

③その他、体験会やイベント等の開催実績

特になし

2.実証内容と成果

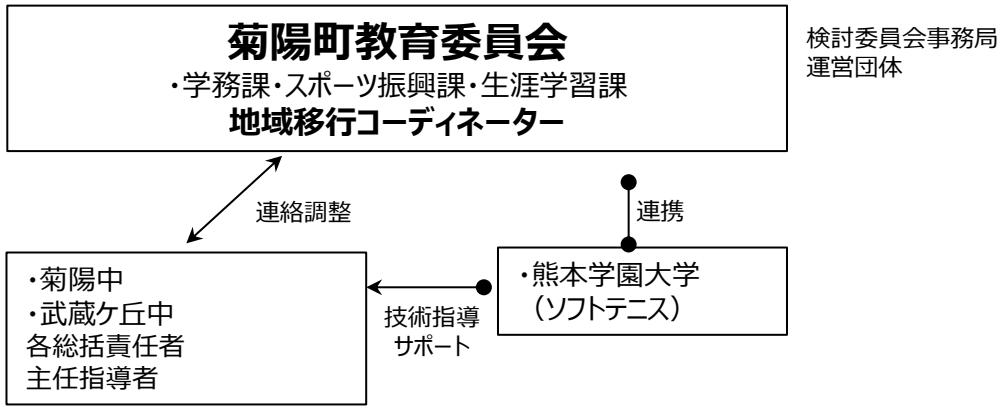
スポーツ庁

主な取組例

●地域クラブ　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	男女バスケ、女子ソフトテニス
運営団体名	教育委員会
期間と日数	男女バスケ：1回 女子ソフトテニス：1回
指導者の主な属性	教諭・外部コーチ
活動場所	学校体育館・町テニスコート
主な移動手段	徒歩・自転車
1人あたりの参加会費等（年額）	男女バスケ：0円 女子ソフトテニス：0円
1人あたりの保険料	スポーツ振興センター保険 生徒1人あたり：460円/年 指導者1人あたり：460円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●自治体

役割：練習会場の確保を行う

●統括責任者

役割：練習場所・練習内容・参加人数の把握を行う

●主任指導者2名

役割：練習内容立案及び全体指導を行う

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

今年度、部活動地域移行コーディネーターを配置した。
休日の中学校部活動地域移行検討委員会の計画立案や関係機関との連絡調整、及び保護者説明会、学校との連絡等の業務を担当した。また、他自治体との情報共有を行うことによって、本町の推進事業の参考とした。県体育保健課担当部署への相談を頻繁に行い、指導助言を受けることができた。
試行として、女子ソフトテニス、男女バスケットボールの2種目で実施した。
今後、地域移行を推進するうえで、生徒及び指導者の関わり方について検討する取り組みとなった。

今後の取組における課題

休日の中学校部活動地域移行検討委員会の中で、基本方針・細則を承認、決定し、地域移行に向けたロードマップを作成して、実践を通して運営体制の基本的な枠組みは構築されつつある。その過程としていくつかの課題が見えてきた。
まずは、指導者確保である。これまでの部活動の教育的意義を理解し、学校教育活動を理解し、協力的であり、質の高い指導者を確保することが急務である。また、運営に必要な財源の確保に向けた条件整備を早急に整え、保護者及び行政へ示していくことが急がれる。更に、運営団体・学校・指導者の連携体制も課題がある。運営団体と生徒・保護者とのコミュニケーション体制を確立するための連携の在り方も課題となっている。

取組の成果

年度初めに在校生保護者対象に部活動地域移行の説明を行った。また、令和8年度入学予定生徒の保護者対象の説明会を行い、今後の予定を説明し、理解を得た。また、学校職員への説明を行うことで、職員の連携体制への協力を依頼した。
試行した種目の生徒・指導者にアンケートを実施した。好意的に受け止めている生徒が93%であった。参加する生徒数や練習会場までの移動が課題となる意見があった。

課題への対応方針

指導者確保に向けて、登録要綱等を整備し、広く公募する方策に取組む事とする。採用にあたっては、審査や登録方法を決定し全体に通知する。
地域移行に向けた必要な財源を確保するために、概算に沿って、受益者負担額を決定し、保護者へ知らせる。
運営団体・学校・指導者の三者が円滑に連携するため、役割分担の明確化を検討する。
運営団体と生徒・保護者との円滑なコミュニケーションを行うためにアプリ等のデジタルツールの導入を検討する。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

部活動地域移行検討委員会（3回）の運営にあたり、検討事項を関係部署担当と協議した。その検討内容を保護者、学校職員へ説明した。部活動地域移行を進めていくにあたっての具体的な仕組みの検討を行ったり、他自治体との情報共有を行った。

研修会等に参加し、国・県の方向性を確認し、本町の推進状況と照らし合わせながら、関係部署と協議する機会を設けた。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

休日の中学校部活動地域移行検討委員会において基本方針を議論する過程において、生徒の健康・安全を第一に考え、活動時間やその内容について項目を取り入れた内容とした。また、大会・コンクール参加においても、過度の負担にならないよう規定を設けた。

実施主体及び指導者には、勝利至上主義にならないよう、活動時間、日数の制限を行う。生徒中心の活動体制を確立する。問題事案発生時マニュアルを作成し、関係機関で共有する。教育委員会登録制度、コンプライアンス遵守、全クラブの保険加入義務化等とともに、相談窓口を開設する。

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

令和9年度からの地域移行に向けて、教育委員会が主体となり、運営を「NPO法人クラブきくよう」が行うことによって、学校と指導者及び保護者のスムーズな連携を図ることとした。指導者の確保、指導者研修、指導者との連絡をスムーズに行うためのシステムの仕方を検討した。参加生徒とその保護者、指導者、運営主体との連絡調整のシステムの仕方を検討した。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

生徒間及び生徒と指導者間のトラブルに際し、保護者、後援会、学校、NPO法人クラブきくよう、町教育委員会と連携を図り、早期に対応し解決を図る。そのための問題発生時の対応マニュアルを作成した。マニュアルを基に、運営主体である教育委員会を中心に、指導者・保護者及び関係機関と連携して、問題の早期発見、解決に取組むこととした。

また、相談窓口を開設した。休日の練習や大会・コンクール参加において、気づき等について相談を受け付けることによって、健全な活動を継続するためのものであり、指導方法や選手起用等の問い合わせは受け付けず、実施主体で対応することと区別して対応する。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

先行実施種目を指導する指導者に地域スポーツ指導者研修アーカイブの視聴と研修会を実施。研修アーカイブを視聴しての感想と今後の指導にどのように活かすかについて、指導者自身の方向性を確認した。回答した内容について個別に話を聞く機会を設け、共通理解を図った。

先行実施した、ソフトテニスでは、外部より指導者依頼し、大学生にもサポートとして生徒の指導にあたってもらった。

取組の成果

指導者研修では、アーカイブ内容がコンプライアンス内容であり、指導者からは、日頃の指導の際に参考となったという意見がほとんどであった。また、直接話を聞く機会を設けたことにより、普段に指導方針や、目指すチームつくりについて指導者の思いを聞くことができた。また、教育委員会の指導者に望むことを伝えることもできた。

大学のサポートについては、細かいところまでアドバイスをしてもらったり、技術面の質問することができた等の意見もあり、一定の成果があったと感じた。

今後の取組における課題

指導者の質を向上させるためには、指導者研修は不可欠と感じる。そのためには、研修内容の検討と回数が必要である。研修の時期・内容を教育委員会を中心に生徒からの意見や、指導者の要望を取り入れながら、進めていく必要がある。

大学との連携では、継続的な連携の在り方に課題を残した。継続してサポートを依頼するために、連携協定を結び、学生との連絡方法等についても検討しなければならない。

課題への対応方針

研修回数は、年2～4回実施することを検討する。研修内容については、コンプライアンス研修、運動・栄養学、コンディショニング研修、生徒・保護者との連携に実践報告等、日常の指導に沿った内容とする。

大学との連携では、大学との連携について必要とする種目や人数等について協議を進める。

平日・休日の一貫指導に関する取組

平日と休日の指導者が変わるため、練習内容や生徒の状況について学校側と密に情報共有をはかっていく

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

休日の指導者を確保するために、菊陽町体育協会所属の競技団体に指導者確保依頼を行った。各競技団体より推薦を受けた方へ具体的な指導について提案していくことを予定している。また、実施主体より推薦を受けた方にも同様の対応をしていくことを検討している。大学との連携については、熊本学園大学ソフトテニス部に技術指導のサポートをお願いした。

今後の取組における課題

各競技団体に対し、指導可能な方の推薦を令和8年度中に推薦してもらうように働きかけていく。
サポートを依頼する大学と実施主体とのマッチングを運営主体である教育委員会がどのように主導していけばよいか、大学側と実施主体側との連携の在り方について教育委員会としてどのように関りを持つのか早急に検討する。
　学生を指導のサポートとして継続的に確保することが可能なのか、大学との継続的な連携の在り方について具体的な協議が必要である。

取組の成果

菊陽町体育協会からは理解を得た。今後指導者の推薦について、機会あるごとに啓発を行う。
練習会に参加した学生からは、「生徒たちが前向きに取組んでくれたので、やりやすかった。」「このような取組を継続するとスキル向上に役立つと感じた。」「言葉でどのように伝えればよいか考える場面があった。」等の意見があった。今後は、他の競技にも広げていきたい。

課題への対応方針

休日の中学校部活動地域移行検討委員会の委員として、体育協会長にも参加いただいている。今後各競技団体には機会あるごとに、啓発を行っていく。
連携する大学の開拓と連携の在り方について町として積極的に取組む。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

本年度は部活動地域移行準備年度であることから、検討委員会で、基本方針及び細則を決定した。また、中学校職員へのアンケートを踏まえ実施し、令和8年度先行実施種目を選定した。

他には、指導者確保に向けて謝金等の条件整備を行った。

関係機関との連携では、熊本学園大学ソフトテニス部に依頼し、試行実施ができた。

また、教育委員会内でも定期的に意見交換を行うなど情報共有を図った。

コーディネーターを中心に他自治体との情報共有や学校及び関係団体との連携協力を得ることができた。

●成果の評価

部活動地域移行コーディネーターを配置したことにより、学校との連絡調整を円滑に進めることができた。また、関係者間で密な協議を重ね、基本方針及び細則を決定したことで、地域移行に向けた明確な方向性が定まった。加えて、先行実施種目を特定できたことは、令和8年度の本格的な取組に向けた大きな成果といえる。

一方で、地域移行を推進する上での懸案事項である予算や人材の確保については、引き続き注力する必要がある。

●今後に向けて

今後は、先行実施種目を進めていくにあたって様々な課題が出てくることが想定されるため、課題解決に向けて関係者で検討していくとともに、令和9年度本格実施に向けて、受益者負担額の設定や、指導者の確保・研修の在り方、運営団体と学校、指導者等関係者とのやりとり等、持続可能な運営の実現に向けて検討を進めていく。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

＜男女バスケットボール＞

Q.本日の合同練習会に参加して楽しかったですか？

行ラベル	個数 / 1，中学校名	個数 / 1，中学校名2
どちらともいえない	5	6%
楽しかった	72	94%
(空白)		0%
総計	77	100%

Q.他の学校と一緒に練習してどうでしたか?

行ラベル	個数 / 1，中学校名	個数 / 1，中学校名2
どちらでもよい	16	21%
よかった	59	77%
別々がいい	2	3%
(空白)		0%
総計	77	100%

＜女子ソフトテニス＞

Q.本日の合同練習会に参加して楽しかったですか？

行ラベル	個数 / 1，中学校名
⊟菊陽中学校	13
楽しかった	13
⊟武蔵ケ丘中学校	11
どちらともいえない	2
楽しかった	9
⊞(空白)	
総計	24

Q.他の学校と一緒に練習してどうでしたか?

行ラベル	個数 / 1，中学校名
⊟菊陽中学校	13
どちらでもよい	10
よかった	3
⊟武蔵ケ丘中学校	11
どちらでもよい	4
よかった	7
⊞(空白)	
総計	24

●参加者/関係者の声

参加者

- 1対1が参考になった。
- チームプレイなどの戦略を学べた。
- 基礎練習の新しい方法がわかった。

指導者

- 人数が多く、運動量に課題があったが、楽しく活動できた。
- 人数が多すぎて練習量が確保できない。指示が通らない。
- 合同の場合、打ち合わせが必要となり、時間も相当かかる。
- 武蔵ヶ丘中学校の生徒と楽しみながら取組む姿があって良かった。指導方法など参考になりました。

参加者

- 他校や大学生の練習で自分にあったものが見つかった。楽しくできた。
- 今まで知らなかったことを知ることができた。これから活かしていきたい。

指導者

- 生徒たちが前向きに取組んでくれたのでやりやすかった。時間が限られており、できることが限られていたが、今回のような活動を定期的にできれば計画的にスキル向上を図っていける。
- 指導者が1人で多数の中学生指導に対応するのは難しく、サポートしてくださる方もおられた方が良い。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料



【長崎県長与町での研修の様子】



【保護者への説明会の様子】



【試行の取組の様子（バスケットボール）】



【試行の取組の様子（ソフトテニス）】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年 → 令和7年

検討開始 → 実施種目、指導者選定 大学への協力依頼 → 学校現場・大学との調整 → 試行の実施

●ステークホルダー

菊陽中学校・武蔵ケ丘中学校、熊本学園大学ソフトテニス部、菊陽町教育委員会

●経過

令和7年5月の菊陽町部活動地域移行検討委員会において、ロードマップの中に先行種目の試行について議題として提案。承認される。
試行にあたって、種目の選定を行い、合同で行うことが可能である両校男女バスケットボール部、専門の指導者がいない武蔵ケ丘中学校の女子ソフトテニス部と菊陽中学校の女子ソフトテニス部による合同練習を行うことに決定。
指導者は、男女バスケットボールは教職員が担い、女子ソフトテニスは熊本学園大学のソフトテニス部の協力を得ることになった。

●実施にあたって生じた課題

合同練習を行うにあたって、両校との調整に時間を要した。また、大学との連携にあたっても初めての試みにつき、調整に時間を要した。

●実施内容、工夫した点 等

試行の取組とはいえ、取組の報告を指導者から行っていただくにあたって、本格実施への取組を見据え報告方法を検討。フォームからの報告を行ってもらった。
オンライン活用により、早期に報告内容を把握できたことがよかった。
あわせて、取組に係るアンケートを実施し、生徒の意見、指導者の意見を聞くことができた。

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和6年度 2024			ｱﾝｹｰﾄ準備	ｱﾝｹｰﾄ実施	ｱﾝｹｰﾄ集計		第1回準備委員会 コーディネーター町当初予算どり	第2回準備委員会	検討委員会(第1回)		新入生説明会 コーディネーター国(県)申請	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和7年度 2025	(ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ)	検討委員会(第2回) 保護者説明会(1回目)	人材バンク開設		地域クラブ指導意向調査 一部種目の試行実施 中学生との意見交換 ※実施した種目の部活動の生徒		検討委員会(第3回)		先行実施種目調整 指導者依頼	検討委員会(第4回)	新入生説明会 保護者説明会(2回目) 教職員説明会 先行実施種目 指導者・コーチ研修会	

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
令和8年度 2026	生徒、保護者説明会 先行実施種目 指導者・コーチ決定 (ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ)	検討委員会(第5回)	先行実施種目 保護者説明会 指導者・コーチ研修会	先行実施種目活動スタート(月1回、8回) (7月～2月)			検討委員会(第6回)			検討委員会(第7回)	指導者・コーチ研修会	全部活動休日 移行会議